



# グローバル探究ライフ

コンフォートゾーンから飛び出すことで、学校生活ではできない出会いや体験ができるのが留学。その経験者たちに、リアルな留学ライフと気持ちの変化について語ってもらうシリーズです!

File No.19



土倉 永さん (18歳)  
ワオ高校 (通信制・私立)

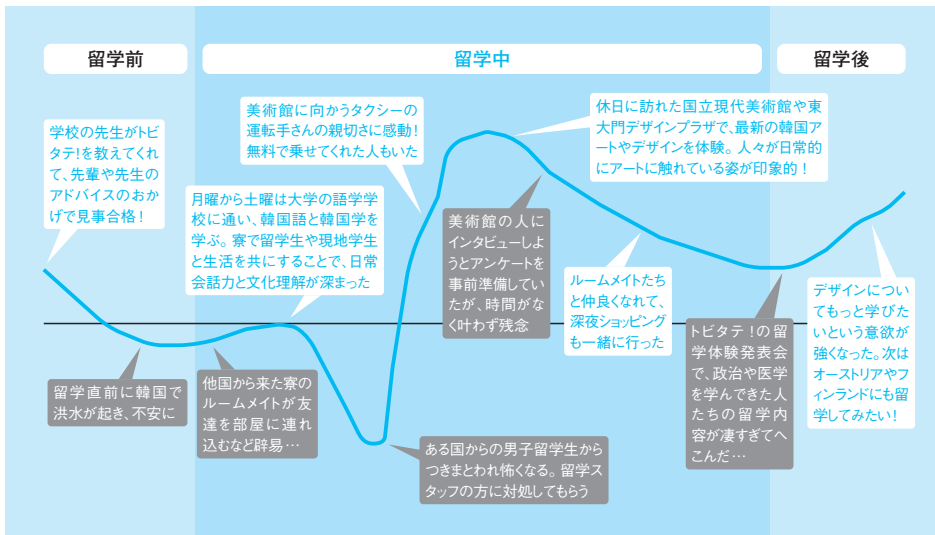
## 韓国文化を好きな自分が先生が留学を勧めてくれた

幼少期から絵を描くことやデザインが好きで、韓国ドラマのポスターやK-POPのCDパッケージのデザインが、内容の世界観を最大限に引き出していると感じ惹かれていました。私が韓国好きと知って、学校の先生がトビタテ!の留学制度を紹介して勧めてくれたのです。

私は好奇心が強い一方で、消極的で怖がりな性格。でも、大好きな韓国やデザインを学べる機会を与えてもらい、「こんな機会を逃してはいけない。ここでがんばって変われたら何かを得られるかも!」と、思い切って一歩踏み出して本当によかったと思っています。

留学中に、トイレや街などで感じた違和感をスルースずに深掘りするようになりました。そして、「デザインは見た目ではなく、文化や仕組みを作るものだ」と感じることも、ますます韓国への興味が膨らみました。今後は、まずは専門学校でデザインを学び、その後に韓国学のある大学に編入してさらに深く学べたらと考えています。

2年生になるときに、さまざまな探究活動ができるワオ高校に転校。探究活動を通して、考えを言語化する力がついたらと自覚。トビタテ!の留学で日韓のデザインや文化の違いから感じたことを自己分析し、生活に身近な商品のパッケージデザイナーを目指そうと考えている。



### DATA

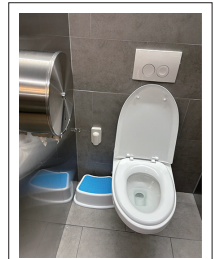
- 【留学した年齢】17歳
- 【留学した国】韓国
- 【留学期間】高校3年の7月から2週間
- 【留学内容】語学を学びながら韓国デザインの魅力を探る【留学しようとおもったキッカケ】韓国を好きな自分が先生が「トビタテ!留学JAPAN 日本代表プログラム」を紹介してくれたら応募。
- \*トビタテ!留学JAPAN 日本代表プログラム(以下、文中では「トビタテ!」)とは文部科学省が官民協働で留学促進を展開するキャンペーンによる留学支援制度。

建物自体がアートのような東大門デザインプラザでは可愛いお土産も買えました。



国立現代美術館では「アートが生活に溶け込む空気」を感じ、気づきが多かった。

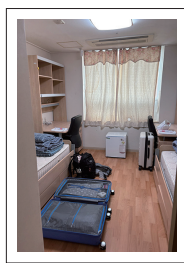
流すボタンのわかりづらさ、トイレレットペーパーの切れにくさなど、トイレで文化の違いを痛感。



歩きスマホによる事故防止のために、地面にLEDライトを埋め込んだ「床型信号」に感心。



日本語で話してくれたり、留学に来たことを喜んでくれた親切なタクシーの運転手さんたちに遭遇し、人の優しさに触れて感動。



建国大学の寮では中央アジアからの学生と同室。文化の違いに戸惑いつつ、最後は仲良くなれた!



ソウルの象徴南山タワーにも行きました!

北朝鮮との南北軍事境界線を挟んだDMZ(非武装地帯)を訪問。展望台から北朝鮮を見ることもでき、歴史の悲しさを感じた。

